

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	15-326	慶應義塾大学
<b>題名(原題/訳)</b>		
Effectiveness of Alcohol Brief Intervention in a General Hospital:A Randomized Controlled Trial. 総合病院でのアルコール短期介入の効果:無作為対照試験		
<b>執筆者</b>		
Mcqueen JM, Howe TE, Ballinger C, Godwin J.		
<b>掲載誌</b>		
J Stud Alcohol Drugs. 2015 Nov;76(6):838-44.		
<b>キーワード</b>		<b>PMID:</b>
短期介入、 総合病院		26562591
<b>要 旨</b>		
<p>目的</p> <p>本研究の目的は、総合病院設定の範囲内でアルコール短期介入(ABI)の効果をスクリーニングだけの群と比較し、危険飲酒または有害飲用者で、アルコール消費に関して調べることである。</p> <p>方法:</p> <p>スクリーニングの後、13ヵ月のリクルート期間の中に内科および整形病棟に入院した124人の危険あるいは有害な飲用者(103人の男性、年齢18-80歳、Fast Alcohol Screening Test[FAST]で3-12のスコア)は、ABIまたは対照を受けるためにランダム化された。介入群では、自分自身の個人的なアルコール減量のゴールをセットするために支援するABIを受けた。そして、両群は健康情報リーフレットを受けた。7日間の振り返り法によるアルコール消費量の報告は、入院の前と入院6ヵ月後にうけた。</p> <p>結果</p> <p>FASTがスコアすること以外は、ベースラインの実態的人口統計学と臨床的特徴がすべての変数の上で2群間の統計差を示さなかった。そして、FASTは介入群(<math>p &lt; .05</math>)でより高かった。飲酒量を週当たりのアルコールとして85グラム(95%CI[162.46、7.54])減量がベースラインからの変化に基づいてみられ、介入群を支持して、群間で観察された。しかしながら、6ヵ月後の週当たり飲酒量は、群間の有意差がなかった。介入群(<math>U = 1,537, p = .043</math>)に有利な有意な平均差として、毎週の大量飲酒機会がへっていた。</p> <p>結論:</p> <p>本研究の結果は、総合病院において有害な/危険な飲用者をスクリーニングしABIを提供することが、スクリーニング単独と比較してアルコール消費を減らす際に有用であることを示唆する。</p>		